

私たちに比べると世間の人はそれこそしやあしやあしたもんや

私なんか傍らではらはらするようなことでも平気や

この家も美しいもんだ。櫻田で生まれたんですもの。なかなか気前のええ子や。また取り戻したんだね。延若をくわえ出して、温泉宿から電報で家へ取り戻したというわけを皆なで喜ばねどいう人ですもの。

お母さんが長くやつておられるの、おまかせなすかようね。

ここは格式ばってるだけ何でも損や

けれど格式を崩したらなお

いかんじやないかしら。

秋聲旅日記

原作 徳田秋聲
「挿話」『籠の小鳥』
「町の踊り場」『旅日記』

製作 ユーロスベース
監製 賢町商店街振興組合
シネモンド

監督 十脚本 青山真治

出演

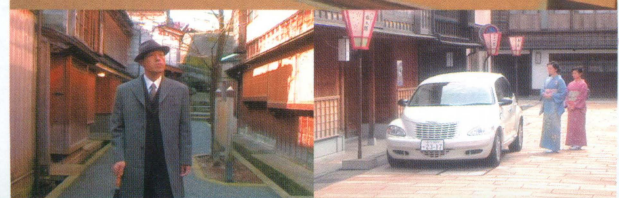
嶋田久作

とよた真帆

ナシモトタオ

西條三恵

ケイコ・リー



ジャズでも聞きにいかないかいや
ジャズ？
いやや、
そんな
やかましいもの

事情が許せば、
静かなこの町で隠逸な余生を楽しむ場合、
陽気でも陰気でもなく、意気でも野暮でもなく、
なおまた、若くもなく老けてもない、
そして馬鹿でも高慢でもない代わりに、
そう剛巧でも愚図でもないような彼女と同居しうる時の、
寂しい幸福を想像しないではいられない。なかつた
若い時綺麗な人は、お絹とおひるの性格の相違や、時代の懸隔や、
年取るとへんになるもんや
まだ何か食べたし、
もう食べ飽きた。
どこへ行ってても同じものば、
口は、
今でも長者のようなお持ちでいるおひるたちの母親は、
嗜好などのおごったお上品なお嬢さんであった。
この町の空気の流れないこの町の中でも、こんな人はまた珍しかった

